

処女戯曲シリーズ①

# 森をさがしに

作・中嶋悠紀子

【登場人物】(女9・男3)

エマ	メスチンパンジー
カノコ	天才研究員
倉敷	エマの父。博士
坂上	研究員
レイコ	エマの母
ヤマト	オスチンパンジー
サクラ	メスチンパンジー
テリー	オスチンパンジー
ロッキー	オスチンパンジー
ジュリア	メスチンパンジー
月島	政府の秘密捜査官
桃園	月島の部下

【1】

ここは倉敷チンパンジー飼育研究所。  
多くのチンパンジーが研究のために飼育されている。  
そこに怪しげな少女が研究所に忍び込んだ。  
彼女の名前はカノコ。

坂上  
そこにいるのは誰だ？　ここは関係者以外立ち入り禁止だ。  
しまった。見つかったか…(そそくさと逃げて行く。)  
あっ！まてっ！

舞台は変わってエマの部屋。  
エマは何かを追い払うかのように暴れている。  
レイコがエマの部屋に入ってくる。  
彼女はエマの母親である。

レイコ　エマ、どうしたの？  
エマ　アー。  
レイコ　動けるようになったの？  
エマ　アー！

レイコ、エマの様子がいつもと違うことに気付く。

レイコ　エマ、具合でも悪いの？  
エマ　私の中にユーレイがいる。

レイコ 何？ わからないわ。

エマ、レイコを突き飛ばして逃げる。

レイコ ちよつとエマ！（エマを追いかけていく）

再び舞台は倉敷チンパンジー飼育研究所。

坂上 おかしいな。どこへ行ったんだ…。

倉敷がやってくる。

倉敷 どうした？坂上。

坂上 いや、さつき怪しげな女の子がここに勝手に入り込んできたんで注意しようとしたんです。そしたら逃げられてしまつて。

倉敷 そうか…。

坂上 この研究所はIDなしじゃ入れないはずなのに。

倉敷 他の研究員にも注意を呼びかけないと。もしかしたら委員会がよこした政府側の調査員かもしれん。

坂上 人間の記憶をチンパンジーに移すつていうたまげた研究ですからね。

倉敷 この研究に人間を使ったことがバレてみる、大変なことになるぞ

認めてくれませんかからねえ。

坂上 ところで、エマの様子はどうか？

倉敷 大丈夫です。今のところ拒絶反応はありません。

倉敷 そうか。しかしこれからが心配だな。いくら今までチンパンジ

ーと共に生活してきたとはいえ、目が覚めれば自分の体がチンパンジーになっているのだから。

坂上 でも、いずれにしてもこの実験をしなければエマちゃんを救うことはできなかつたんですよ。あんなにひどい交通事故だったんです。

倉敷 本当にこの結果がエマを救うことになるのだろうか？正直言つて自信をなくすよ、父親としてのね。

坂上 何言ってるんですか。エマちゃんだって、たとえどんな姿であっても死んでしまうより生きている方がいいに決まっています。もつと自信を持って下さい。

再びカノコ登場。なぜかうさぎのつなぎを着ている。

倉敷と坂上はそのことに気付かない。

倉敷 …。

坂上 私がエマちゃんの父親ならきつと同じことしますよ。

倉敷 そうだろうか…？

カノコ そうですよ。

倉敷・坂上 わっ。

カノコ グーテンモルゲン☆

坂上 ぐ…ぐーてんもるげん…？

倉敷 き、君は…！

坂上 知ってるんですか？

倉敷 君はどこの飼育所から抜け出して来たんだ？

坂上 こける。

カノコ そんなコト聞いちや：ダメウサギ！（なぜか坂上を突き飛ばして逃げる）

倉敷 おーい！ 獲って食ったりしないから！

坂上 っていうかめちやくちや人間じゃないですか！

倉敷 おどろかせちやったね。ごめんよお。さ、コレあげるからおじさんのところへ出ておいで。（と白衣のポケットからニンジンを取り出す）

坂上 何やってるんですか！

倉敷 まあまあ、隠れて様子を見ようではないか。

倉敷・坂上隠れる。

カノコ …こんな作戦にだまされたらダメウサギ…。（と言いつつも、ニンジンが気になって仕方がない）

カノコ、警戒しつつもニンジンに近づいていく。

倉敷 今だ！

坂上 ハイ！

カノコ しまったウサギ！

倉敷・坂上、いかにも怪しげなウサギを捕まえる。

倉敷 もしかして君は、カノコ君かい？

カノコ バレてしまっっちゃあ仕方ありません。いかにも、私がカノコであります。

倉敷 やっぱり。うさぎの変装でピンつときたよ。君の特技だよ。履

歴書にかいてた。

カノコ 覚えてくれたんですか。さすが倉敷博士は目のつけどころが眉毛の下ですね！

坂上 そのままじゃないか！ しかも履歴書に変装なんて書くなよ！

倉敷 紹介しよう。今日からこの研究所で働くことになった八木カノコ君だ。

カノコ 八木カノコ16歳です！（ウサギマスクを取る）

坂上 あ、君はさっきの…。

倉敷 知ってるのか？

坂上 ホラ、さっき言ってた怪しい侵入者ですよ。

カノコ 失礼な、ちゃんとしてID持ってます。

倉敷 しかし、なんでまたこんな格好をしているんだ？びっくりするじゃないか。

カノコ この方がチンパンジーと早く仲良くなれると思って。

坂上 それはおかしい。ぶちおかしい。

倉敷 とりあえず白衣に着替えておいで。あとで館内を案内するよ。

カノコ はい。

カノコ、去る。

坂上 倉敷博士、本気であんなのをここで働かせるつもりですか？

倉敷 あれでも彼女はあの歳でドイツの名門大学院を卒業してるんだ。

坂上 マジっすかあ！？

倉敷 大の動物好きだそうで、ぜひともココでチンパンジーの研究をしたいそうだ。

坂上 動物研究所ならこんな所じゃなくても他にもいいところがあるのに。

倉敷 何か言ったか？  
坂上 いえ。  
倉敷 なにせ期待の新人だ。仲良くしてやってくれ。

そこへ倉敷の携帯が鳴る。

【2】

なければなりません。  
p・s 今日の晩ご飯はボンカレーでした。

倉敷 もしもし、ああ、レイコか。何！？わかった！すぐに行く！

坂上 どうかしたんですか？

倉敷 エマが暴れて部屋から逃げ出したらしい。

坂上 動けるようになったんですか？

倉敷 詳しいことは後だ。とにかくいくぞ！

坂上 ハイ！

倉敷・坂上・去る。

カノコの日記

9月1日 今日、私の新しい配属場所での生活がスタートしました。「倉敷チンパンジー飼育研究所」といって、ここでは住処を失った世界中のチンパンジーが集められて飼育されています。動物大好きな私にとってはかなりラッキーな配属場所です。毎日毎日、ごった返すウソの中で生きている汚い人間を相手するのは疲れました。

その点動物は、人間以外の生き物は、正直で、まっさらです。私ったら何気だるいコト言ってるんでしょーね、まだ若いのに。それでも、新しい職場とはいえ、今までの任務がなくなったわけではないので、情が移ったりしないようにくれぐれも注意し

レイコ、エマを見つけるために必死で研究所を探している。

レイコ エマー！どこにいるの？エマー！

倉敷、坂上がやってくる。

倉敷 レイコ！

あなた。

レイコ 一体何がどうなっているんだ？

それが、目を覚ましたと思ったら、急に鏡を探し出して自分の姿を見てしまったの。そしたら急に急に暴れ出して…。

倉敷 ショックを与えないためにしばらくは自分の姿を見せないようにって言うってあるじゃないか。

ごめんなさい。

レイコ とにかく、外に出られちゃ危険ですから急いで捜しましょう。

倉敷 ああ。

レイコ ええ。

倉敷、坂上、レイコ去る。

エマは研究所の屋上にやってくる。

エマ  
私の中に人間のユーレイがいる…。これは…私？ いやっ！  
こないで！どっか行ってよ！

そのころ倉敷、坂上、レイコ達は

倉敷  
見つかったか？

坂上  
飼育所の方にはいませんでした。

レイコ  
事務所の方にもいなかったわ。

坂上  
どこ行っちゃったんだ？

レイコ  
あ、屋上…屋上はどうかしら？

倉敷  
行ってみよう。

3人、屋上へ向かう。

坂上  
あ…。

3人、一人もがくエマを見つける。

倉敷・レイコ エマ！

3人、エマをつかまえる。

エマ  
アー！ アー！

倉敷  
坂上！

坂上  
ハイ！

坂上、ポケットの中から注射器を取り出しエマに注射する。

すると、エマの意識はだんだん遠のいていき、  
そのまま眠ってしまう。

坂上  
とりあえず、これでしばらくは大丈夫ですね。

倉敷  
おそらく、急に自分の新しい姿を見てショックを受けたんだら  
う。

坂上  
やはり、すぐに受け入れるのは難しいみたいですね。

レイコ  
ごめんなさい、私のせいで…。

倉敷  
私こそ、さっきは怒鳴ったりしてすまなかった。私にも責任が  
あつたのに…。

レイコ  
いえ…。

そこへカノコがやってくる。今度こそ白衣を身に着けている。

カノコ  
なあんでこう、研究所ってモンは同じ部屋ばかり並んでるか  
なあ。コレは方向オンチである私にしかけた罫としか思えない  
わ！…ん？

君は…誰だ？

坂上  
八木カノコ君ですよ。さっき僕に紹介してくれたじゃないです  
か！

倉敷  
おおそうだった。白衣を着ていたから分からなかったよ。

坂上  
なんどうさぎのつなぎなら分かるのに白衣だと分からないんで  
すか！

レイコ  
この方が今日きたばかりの新人さん？

カノコ  
八木カノコ16歳です！ヨロシクお願いします！

レイコ  
16歳か…エマもそうだったわ…。

倉敷・坂上  
…。

坂上 それより、どうして屋上に？

カノコ 道に迷っちゃったんです。

坂上 いや、いくら迷っても屋上に出るのはおかしいぞ。

カノコ そうですか？

坂上 そうだ。

カノコ じゃあ、なんで先輩達こそこんな所にいるんですか？

カノコ、ぐったり倒れているエマを見つける。

カノコ あ…。この子ですか。例の。

倉敷 ああ。

カノコ、エマの首にかかっているペンダントに目を向ける。

ペンダントには *Ema Kurashiki* と刻まれている。

カノコ よろしくね。エマ・クラシキ。

### 【3】

森、いや、森に似せて作られた部屋である。

倉敷 チンパンジー飼育研究所の飼育所。

ここでは絶滅寸前のチンパンジーが集められて暮らしている。野性状態で保護されたものもいれば、ここで生まれたものもいる。

チンパンジー達 うおーっ！（食卓を囲もうとする。）

ロッキー ちょっと待てーっ。食事の前に、朝のごあいさつ。

チンパンジー達 うほ。

ロッキー まず、この森のボスであり、この群れのパパリンでもある、ロ

ッキーお父さんにごあいさつ！

チンパンジー達 おはようございます。

ロッキー そこでポーズだ！ 朝のごあいさつは、こうするのだ！

ロッキー、怪しげなポーズをする

チンパンジー達 うほっうほっ！！（必死で拒む）

ロッキー やらない奴はお尻ペンペンだ。

チンパンジー達、やけくそでポーズをする。

ロッキー 誰がそんなお下品なコトをしろと言った。

チンパンジー達 ええーっ！

ジュリア （ロッキーに）あなた、おバカなコトはよしてください。

ロッキー おバカだとお…。まあ、愛するジュリア母さんが言うなら…。

いや、でも、感謝の気持ちを忘れちゃイカン。ってことで、今日も朝ゴハンを用意してくれたジュリアお母さんにも、朝のごあいさつ。

チンパンジー達 おはようございます。

チンパンジー達、戸惑いつつさっきの怪しげなポーズをしようとするのをジュリアが遮って

ジュリア みんなー、ゴハンよお！

ジュリア しなくていいわよ。

チンパンジー達 ホッ。

ヤマト 今日の朝ゴハンは何ですか？ジュリア母さん。

ジュリア 今日の朝ゴハンは、バナナと、バナナに、バナナよ。

テリー 全部バナナやん。

ジュリア あら、バナナを馬鹿にしちゃいけないわ。バナナは消化されやすいでん粉を豊富に含んでいるから、スポーツをするときや、疲労時のエネルギー補給源としても適しているの…

チンパンジー達 (ジュリアを無視して) いただきまーす。

チンパンジー達、バナナを食る。

ジュリア それでね、品質が落ちやすくて低温に弱いから冷蔵保存には向かないのが難点だけど、乾燥させればバナナチップにすることもできるわ。あ、ちなみに生バナナは100gあたり87kcalだけど、乾燥バナナは287kcalもあるのよ。

チンパンジー達 ごちそう様でしたー。

ジュリア ノーッ！

ロッキー そういえば最近、ミリーの姿を見ないなあ。

ジュリア 3ヶ月くらい前に倉敷さんがミリーをここから連れて行くのを見たけど…それっきりね。

ヤマト どこか具合でも悪いのかな？

テリー 人間の食糧になって食われてたりして。

ジュリア テリー、変な冗談はおよしなさい。

ロッキー しゃぶしゃぶは嫌だなあ。

ジュリア あなたっ！

サクラ ねえヤマト、しゃぶしゃぶって何？

ヤマト 肉を薄く切って、沸騰した水の中に10秒位ゆきゆさやって

ね、ゴマだれとか、ポン酢につけて食べる肉料理だよ。

サクラ やだあ。

ジュリア 倉敷さんはそんなコトするような人じゃないわ。こう、もっと、

何て言うか…紳士よ。

ヤマト ジェントルマンですよね。

テリー どうかなあ。そろそろ食糧危機って言うし。

ロッキー じゃあ、やつぱりしゃぶしゃぶに…

ヤマト 父さん！

ロッキー しゅん…。

サクラ ミリーさんは一匹狼だったから…。

ロッキー チンパンジーのくせに一匹狼…ややこしいな。

テリー なあヤマト、お前は何も知らんのか？お前、ミリーと仲良かったんとちゃうんか？

ヤマト 僕は何も…。

テリー まあええわ。さてと、今日は何しようかなー。まず…昼寝やな。

サクラ お兄ちゃん寝てばっかじゃない。まだ朝よ。

テリー やかましいわ。

サクラ そんなに寝てばっかだと牛になっちゃうんだから。

テリー なるか、アホ。

ロッキー テリーよ、そんなカツカしていると本当に蚊になっちゃおうぞ。

テリー 親子そろってアホばっかやな。

ロッキー 反抗期だ…。

ジュリア サクラ、片付け手伝ってちょうだい。

サクラ はい。

みんな去っていく。

ヤマト 本当にどこに行っちゃったんだろう…。

【4】

エマの部屋、四角い白い壁で囲まれている。  
机と椅子がひとつ。

エマ、眠りからようやく目覚める。

エマ …。

カノコ …。

エマ …。

カノコ …いや、何か言つてよ。

エマ …。

カノコ わかるんでしょう？私の言ってること。

エマ …。

カノコ 心配しなくていいよ。倉敷博士から全部聞いてるから。

エマ アー？

倉敷、レイコがやってくる。

倉敷 エマ、調子はどうだい？

エマ アー…

カノコ (エマが答えようとするのを遮って) 大丈夫みたいです。

レイコ エマ、私のことがわかる？わかるなら、この手を握り返してち

ようだい。

エマ、レイコの手をぎゅっと握り返す。

倉敷 この様子ならアレを渡してもよさそうだな。

倉敷、部屋の隅に置いてある布をかぶった物体を手にとり、  
そっと布をはずす。中からはパソコンのキーボードのようなも  
のが姿を現す。

エマ あー？(それ、なあに?)

倉敷 これを使って何か文章を打つてごらん。

倉敷、エマにキーボードを差し出す。

キーボードを受け取ったエマはおそろおそろ文章を打ち込む。

倉敷 打ち終わったら、このボタンを押す…と。

すると、キーボードに内蔵されているスピーカーから

エマの声。しかしそれは無機質で抑揚のない声。

エマの声 ワタシノナマエハエマ。

エマ …

！  
すごいだろう？このキーボードを使えば打った文章がそのまま  
声になって出てくるんだ。

エマ アー。

カノコ君が…ああ、彼女は3日前からこの研究所で…

あー。(知ってるわ)

倉敷 そのカノコ君が開発してくれたんだ。お前が眠っている間に。

カノコ そうなんです。

倉敷 次はこのボタンをおしてごらん。

エマ アー。

エマ、キーボードをたたく。

すると、スピーカーからはさつきよりも少し高めで抑揚の声。

エマの声 私の名前はエマ。

カノコ 抑揚がついたでしょ。

倉敷 他にもあるんだ。

倉敷 エマの手からキーボードを奪い取り、何やら熱心に文章を打ち込む。

すると、突然照明はピンク色に変わって妖しい音楽が流れ出す。スピーカーからは、水商売風のオネエサンのような、やらしい声。

倉敷以外 …。

倉敷 どうだい？電気の切り替えや音楽も流せるんだ。

レイコ、ハリセンで倉敷を一発いてこます。

倉敷 はっ！？（我にかえる）

レイコ 調子に乗りすぎよ。

エマ、倉敷の手からキーボードを取り返して文章を打ち込む。

ここからエマはキーボードを使って会話をすすめる。

エマ 大体のことはわかったから。

倉敷 （苦し紛れに）テレビのリモコンにもなるんだぞ。

エマ とにかく、これで今までどおり会話ができるのね。

倉敷 同じとまでにはいかないが、近いくらいにはね。

レイコ 昨日の事、覚えてる？

エマ （こくりと頷く）

レイコ 新しい自分にショックをうけたから？

エマ （首をふる）…ユーレイがいたの。

レイコ 幽霊？

エマ そう、ユーレイ。前の、人間だった頃の私の姿をしたユーレイ。

その子ったら私の真似ばかりしてくるの。

倉敷 どんな風に？

エマ 私が右手を挙げるとその子も右手を挙げるし、ドアノブを掴も

うとすると先につかまれちゃうし…。

カノコ それってあなたがそのユーレイの邪魔してるんじゃないの？

エマ バカにしないで。

倉敷 その話、もつと聞かせてくれないかい？

エマ だから私、思いっきりジャンプをして天井にぶらさがってやっ

たの。そしたらそのユーレイはついてこなかった。ついてこれ

なかったのね。そんなこと、普通の人間ができるはずないもの。

倉敷 今もそのユーレイはお前の中にいるのかい？

エマ 今は部屋の隅っこで…（部屋の隅を指差しながら）あの辺かな、

あの辺でうずくまってる。多分、パパの薬のおかげだと思う。

倉敷 そうか。また検査してみよう。

レイコ きつと、いろんなコトが一度に起こって疲れちゃったのよ。心

配することないわ。

すると、坂上がやってくる。

坂上 倉敷博士、ジュリアの様子が少しおかしいんで診てもらえませ

ん？

倉敷 何だって？

坂上 多分、妊娠じゃないかと思うんですけど…。

倉敷 わかった、すぐにそっちに向かうよ。

坂上 お願いします。

倉敷 カノコ君も先に行っててくれ。

カノコ わかりました。

カノコと坂上、飼育所へ向かう。

エマ ねえパパ、私はいつになったら他のチンパンジーと一緒に生活

できるの？

レイコ えっ…？

エマ だってこれからは一緒に生活していかなくやいけないでしょ。

早い方がいいわ。

倉敷 ……当分…難しいな。

レイコ 当分も何も、ずっとダメに決まってるじゃない。

エマ ……何で？

レイコ 何でって、あなたの中身は人間なのよ。

エマ 人間だったのよ。だけどこれからは違う。

倉敷 その話は夕飯の時にしよう。私も行かなければ…。

レイコ ちよつとあなた…。

エマ 今日こそ早く帰ってこれる？

倉敷

ああ。

倉敷、エマの部屋から出て行く。

レイコ

また、そうやってはぐらかすのよ…。

カノコの日記

カノコ

9月4日 倉敷チンパンジー飼育研究所ではなんと、人間の記憶をチンパンジーに移し変えるというこりやまたまげた研究が進められていたのでした。ニューロンの記憶理論を応用した研究です。被験者になったのは、この研究所の責任者である博士の娘、エマ・クラシキという少女です。法律ではこの研究はもちろん認められておらず、2年前に打ち切られている筈です。すぐ調査部に報告して取り押さえなければなりません。……だけど、私はあの被験者にすごく興味を持ちました。もつと彼女を知りたい…。だから、しばらくの間このことは上には報告しないでおきます。次回、「美少女研究員カノコ」家政婦は見たあ！？愛の逃避行。お楽しみに。……今日の日記もなかなかの出来だわ。うん。

カノコ、日記を閉じる。

すると、カノコの携帯にメールが届く。

それを確認し終えると、カノコは自分の部屋を後にする。

【5】

昼下がりの飼育所

チンパンジー達 ええー！？

テリー 妊娠やてえ？

サクラ 家族が増えるのね。

ロッキー そうだ、サクラはお姉ちゃんになるんだぞ。

ヤマト おめでとう母さん。

ジュリア ありがとう。

ロッキー と、いう訳だから、今日から母さんに迷惑をかけないようにし

つかりお手伝いをするんだぞ。

サクラ 任せて。

テリー あーあ、次に子供作ってボスになるのは俺やと思っててんけど

なあ。

サクラ 恋人もいないくせに。

テリー 何やと！

ロッキー そうだな。テリーもヤマトもいずれはボスになってこの群れを

離れていつちやうんだなあ。

テリー まーな。

ロッキー サクラもお嫁に行つちやうだろうし…。父さん寂しいじゃない

か。

サクラ 私はどこにも行かないわ。

ロッキー サクラ…（おいおい泣く）

ジュリア でも、いつかあなたにも好きな子ができるわよ。

サクラ えー？

ジュリア …それが、メスの幸せなんだから…。

同じ頃、研究所の前には一人の女が待ち構えている。  
名前は月島。

カノコと同じ、政府の人間である。

向こうの方からコンビニの袋を手に提げたもう一人の女が走

てやってくる。

桃園という名前。月島の部下である。

先ばあーい！

遅い！缶コーヒー買ってくるのに何分かつてるの？

すいません。どのメーカーにさるか悩んでたんです。

別にコーヒーなら何でも構わないわよ。

そうですか。よかったです。ハイ、これ。

桃園、コンビニの袋からゼリーを取り出す。

何？これ。

ゼリーです。

そんなの見りやわかるわよ！

すいません。

桃園、私はゼリーなんかを頼んだ覚えはないわ。

でも、先輩さつき何でもいいって言ったじゃないですか。

コーヒーならって言ったのよ。

月島、そのゼリーがコーヒーゼリーであることに気付く。

…。

…。

月島  
桃園

桃園  
月島  
桃園  
月島  
桃園

月島  
桃園  
月島  
桃園  
月島  
桃園  
月島

月島 …なるほどやりやがったわね。…コーヒーゼリー！

桃園 ぴんぼんぴんぼーん。

月島 あんたバカア？

桃園 バカじゃないです。

月島 いや、バカよ。

桃園 ちがいます。

月島 ねえ桃園、普通コーヒー買ってきてって言われてコーヒーゼリー

買ってくる？飲む方を探すでしょう？愛する彼が君の魚料理

を食べたいって言ったらかマボコを皿にもっさり出すワケ？ね

え、どうなのよ？私の言ってることおかしい？

それは気が付きませんでした。

反省！

桃園、反省のポーズをする。

月島 よろしい。

そこへカノコが現れる。

カノコ 何やってるんですか？

月島・桃園 はっ！？

月島 (気を取り直して)遅かったわね八木カノコさん。約束の時間

は2時だったはずだけど。

桃園 今3時ですよ。

カノコ すいません。なかなか抜け出せなくて。

月島 まあいいわ。で、どうなの？この研究所は。

カノコ 今のところ違法行為の対象になるものはないかと思われま

月島 そう…。

カノコ でもまだわかりません。だからもう少しここを調べさせてもら

えませんか？

月島 わかったわ。見つけたらできるだけたくさん証拠を持ち帰る

のよ。

カノコ わかってます。

桃園 あの、カノコさん。

カノコ はい？

桃園 この研究所にカツコイイ人っています？

月島 はあ？何バカなこと聞いてんの。(カノコに)…で、どうなの？

いるの？いないの？

いや、そういうのは別に。

カノコ なーんだ。

桃園 あの、もう行ってもいいですか？休憩時間終わっちゃうんで…。

月島 ええ。

カノコ それじゃ、失礼します。

その時、月島は去ろうとするカノコの腕を引き、背中にピストルを押し当てる。

月島 くれぐれも、私達を裏切らないコトよ。

カノコ …わかってます。

カノコ、去る。

桃園 思ったとおりの行動をとってくれますね。

月島 ええ。

桃園 この研究所はもうリサーチ済みなのに。

月島 あの子程の技術の持ち主なら、もうとっくに調べられてる筈よ。

桃園 よつぽどココが気に入ったんですね。

月島 でも、あの子にはもう少し働いてもらわないと。

桃園 …ですね。

突然、桃園のお腹が鳴る。

月島 …。

桃園 …あは。お腹、減りましたね…。

すると桃園はさっきのコーヒーゼリーを取り出して食べ始める。

桃園 先輩もどうですか？おいしいですよ。

月島 結構よ。

桃園がおいしそうに食べるのを黙って見ている月島。

しかし、自分も食べたくて仕方がない。

…。

我慢できなくなった月島は桃園からコンビニの袋を奪い取り、  
コーヒーゼリーを取り出す。しかし、スプーンがない。

スプーン…

桃園 ああ、これですか？ ハイ。（桃園がこれまで使っていたスプーンを取り出す。）

月島 いや、「ハイ」じゃないでしょう。ふたつもらわなかったの？

桃園 忘れてました…。

月島 あきれた…。

桃園 じゃあ、やつぱりコレを使って下さい。（スプーンを差し出す）

月島 いらないわよ。

月島、どうやって食べるか悩んだのち、がんばって口の中に流し込む。

その様子を自分の部屋から伺っていたカノコ。

カノコ どういうことなの…？私の仕事は調査だけのはず…。

…何か隠されてる…？

カノコは、すぐさまパソコンを起動させて何かを調べ始める。

カノコ 探さなきゃ、国の極秘ファイル…。パスワードさえわかれば開

くはず…。…パスワード…。パスワード…。

カノコ、手を止める。

…森…？

再びカノコはパソコンのキーボードに手をかける。

カノコ そんな…こんなことって…。

カノコの体が震え出す。

【6】

エマの家、食卓を囲んで夕食をとるエマ、倉敷、レイコ

レイコ 久しぶりね。家族そろって食事をするなんて。

倉敷 ここのところずっと忙しかったからな。

レイコ まだユーレイは見える？

エマ 今はどこにもいない。

倉敷 そのユーレイの正体だけどね、それはエマ自身じゃないかって

エマ 云われてるんだ。

エマ どういうこと？

倉敷 つまりね、人間だった頃のエマの感覚だよ。例えば、ドアを開

けるときや水道の蛇口をひねるとき、チンパンジーと人間じゃ手の伸ばし方や力のかけ方って全然違うだろう？その感覚のギャップがユーレイとしてエマに見えたんじゃないかってコトなんだ。わかるかい？

エマ そうかもしれない…。

レイコ 誰が言い出したの？

倉敷 カノコ君だよ。彼女はとてもよくやってくれているよ。将来が

楽しみだ。

エマ そう…。

倉敷があまりにもカノコを誉めるので少々ムツとするエマとレイコ。

レイコ エマ、バナナはおいしい？

エマ うん。昔よりおいしく食べられる。

レイコ よかったわね。

エマ (倉敷に) 飼育所のチンパンジーは毎日ちゃんとバナナをもらってる？

倉敷 みんなにかい？とてもそんな余裕はないよ。

エマ チンパンジーにとってはバナナは利益なのよ！

倉敷 最近ではもうバナナの生産も減ってきているんだ。研究所の資金じゃとてもじゃないけど全員分調達できない。

エマ 私をこんな体にしたからお金がないんですよ。

レイコ エマ！

エマ なら私が稼いであげる。テレビにでもラジオにでも出てあげる。「人間の記憶を持つチンパンジー」ならどこの会社でもスポンサーになってくれるわ。

レイコ そんなことをしてみなさい。私達がしているコトは法律を違反しているのよ。お金どころか、国にすべてを取られてしまうのよ。研究所だけじゃなく、私達家族も。

エマ パパやママには感謝してる。だけど、私のために他のチンパンジーが犠牲になるのは我慢できないの…。

倉敷 実際それでミリイは消えてしまった。

エマ 人間一人にチンパンジー一頭じゃ吊り合わないというのかい。

倉敷 人間はチンパンジーの何百万倍もいるわ…。

エマ 明日飼育所に連れてって。とにかく話をしたいの。

倉敷

エマ

レイコ

エマ ママ？

レイコ 絶対に許さないわ。

エマ じゃあ、私はこれからどうやって生きていけばいいの？

レイコ あなたは私達の娘なのよ。

エマ でもいつかは死んでしまう。いつまでも一緒にはいられないわ。

私には友達をつくることも、結婚することもできないの？

エマは自分の側にあるカップを掴むやいなや、壁に向かって投げつける。

次にテーブルクロスを引っ張り、食器類をなぎ払って床に落とす。

エマ 私はこの体を受け入れたいの。

レイコ エマやめて！

レイコはエマを止めようとするが、エマの腕力にはかなわない。レイコは突き飛ばされてしまう。

エマ いいわ。あつちでチンパンジーにならしてくれないならここでなるから。

倉敷 エマ！

倉敷は部屋の隅にあった麻醉銃をエマに向けている。

エマ お願い、これも私なの。わかって…。

この頃研究所では坂上がサクラを連れて飼育所に戻って来る。

坂上 さあ、こっちだよ、サクラ。

サクラ あー。

坂上 お母さんは妊娠だったけど、君はそうじゃなくてよかったよ。

サクラ あー？

あいにくそんなに食糧がないからね、一頭増えるだけでも大変なんだ。

サクラ あー。

でも君は働き者だから将来はきつといいお母さんになるよ。あー。

坂上、飼育所の扉を開けてやる。

坂上 ここからは一人で帰れるね。

サクラ あー。

坂上 バイバイ。

サクラ、家族のもとへ去っていく。

坂上 将来、きっとよく働いてくれるだろうな、うんうん。

【7】

森。

しかしそれは鉄とコンクリートで作られたアスレチックの森。

ここは倉敷チンパンジー飼育研究所。  
たくさんのチンパンジーが生活している。

カノコ 　　いつてらっしゃい。

飼育所の入口にエマ、カノコ、倉敷がやってくる。

カノコはボタンを押して飼育所を開ける。

エマ 　　ここからは一人で大丈夫だから。

エマが中に入ったのを確認すると、再びボタンを押して扉を閉じる。

倉敷 いや、あそこの小屋で見ているよ。そうしないと母さんが許してくれないんだ。

エマはしばらくの間、緊張に震えてその場にじっと立っている。

エマ 　　そう。

足元はコンクリートの土台、目の前には葉が一枚もないむき出しの鉄の木立が整然と並んでいる。

倉敷 じゃ、カノコ君、しっかり記録してくれ。  
カノコ 　　はい。

エマは空気に漂うチンパンジーの匂いを嗅ぎ、鉄の森にこだまするさまざまな声に耳を傾けた。

倉敷、ボタンを押して飼育所開け飼育所の中の小さな小屋に入っていく。

すると、一匹のチンパンジーがエマの側を通りかかる。  
ヤマトである。

エマ 　　あなた、パパがいるときといたときの態度が全然違うじゃない。  
カノコ 　　そう？

ヤマト ミリイ…？

エマ 　　そうよ。

ヤマト やっぱりミリイなんだね。最近見ないから心配してたんだ。

カノコ そんなつもりはないんだけど何でかな…。…怖いからかもしれない。

エマ 　　何が？

エマ 　　パパが？  
カノコ 　　いや、人間が。

エマ 　　僕はヤマト。間違えてゴメン。容姿がそっくりだったから…。  
カノコ どうして？

カノコ ……わかんない。

ヤマト

カノコ、エマのキーボードを取って

ミリイっていうね、きれいなチンパンジーがいたんだ。いつも一匹でいる子だったんだけどね、3ヶ月くらい前から行方不明なんだけど…。

エマ よく見てるのね。

ヤマト いや…うん、何かね。あ、せっかく知り合えたんだ。こっちは

おいだよ。この森を案内してあげる。

エマ ありがとう。

エマとヤマト、鉄の木立を渡っていく。

その頃カノコは

カノコ 地球の命はあと3年…地球の命はあと3年…。どうしたら私は…私は地球を救える…？

間

カノコ 人間が、いなくなればいい…。

カノコ、エマのキーボードに目を向ける。  
すると、何を思いついたのか突然倉敷に電話を掛け始める。

カノコ もしもし、倉敷博士ですか？カノコです。すいません、ちよつと急にお腹が痛くなってきました。観察を続けられない位痛いんですよ。あいたたた…。だから今日は早く帰らせて頂いてもいいですか？すいません…：ああ、ハイ。わかりました。有難う御座います。では、失礼します。

カノコ、電話を切ると自分の部屋に戻って行く。

再び舞台は飼育所の森。

エマとヤマト、鉄でできた枝を渡っている。

ヤマト こっちだ。危ないから足元に気をつけて。

エマ きやつ！

エマ、足をすべらせて落ちそうになるが、間一髪で枝につかまる。

ヤマト 大丈夫？ 落ち着いて…。

ヤマト、エマの腕をつかんで引き上げる。

エマ ありがとう。

ヤマト でも、最初よりは大分慣れてきたね。

エマ (微笑む)

二匹、移動を続ける。

二匹はこの灰色の森の中で一番高い木の一番高い枝まで登る。

ヤマト ほら、見て。ここからだこの森の全てが見渡せる。

エマ ほんとだ…

ヤマト 僕のお気に入りの場所なんだ。今まで他の奴に見せたことないんだから…。

エマ 灰色ね…。

ヤマト 森って灰色いもんだらう？

エマ ヤマトはここで生まれたの？

ヤマト うん。

エマ じゃあ知らなくて当然か。

ヤマト 何が？

エマ 本当の森はね、緑色をしているの。

ヤマト うそだあ。

エマ 枝にはぬくもりがあつて、幹にもたくさんの生き物が住んでいて、緑の葉っぱで覆われているの。太陽の光をいっぱい浴びて、

キラキラ輝くの。

ヤマト キラキラ★☆☆。

エマ 秋になると花びらのように赤や黄色に変わって落ちて、宝石のような実をたくさんつける。

ヤマト さらにキラキラ★☆☆。

エマ 冬には枝に雪が積もって一面キラキラよ。

ヤマト キラキラキラキラキラキラ★☆☆。

エマ 今じゃどこにもない光景だけだね。

ヤマト なんだか魔法みたいだ。

エマ 自然界の魔法よ。

ヤマト いーなあ。僕も見てみたいよ。

エマ 私も。

ヤマト 君はその森からきたんじゃないのか？

エマ 私が生まれたときには魔法なんて存在しなかった。

ヤマト そっか。今度は僕の家族に合わせてあげる。

エマ え、ええ。

カノコの日記

カノコ 人間はもうだめだよ。だいたいさ、自分勝手なんだよねー。た

くさん資源奪いすぎたしさ、動物達もいーっぱい殺しちゃったもん。そりゃあと3年もすれば滅ぶってなモンでしょう。あぐくの果ては動物をロボットに仕立て上げるんだから。どうかしてるよ。

間

……そこまでして生きようとする意味がわからない…。

間

…でも、死ぬ理由もわからない…。

間

もしかして、生きることも死ぬことも価値は同じなのかもしれない。

間

だあーっ！わからん！わからんわからんわからんわからん！

間

だったらいいかな。今度は人間がゴミになる番だよねー。

カノコはキーボードを手に取り作業を開始する。

人生巻き戻しスイッチがあればなあ…。  
…死にたくなんかないよ…。

カノコはキーボードを抱えたままその場に横たわる。  
そして眠ってしまう。

すると、泥棒の格好をした桃園がカノコの部屋に侵入する。

桃園 全部見させて頂きましたよ。八木カノコさん。

桃園は日記を手に取り

桃園 こんな所に超高性能カメラ仕込んでるなんて、流石のカノコさんでも気付きませんよ！

間

桃園 私ったら、大きな独り言…。

桃園は日記を持ってそのまま部屋から出ようとする。

桃園 先輩、私だってやればできるんです。

桃園去る。

カノコ はっ！いやだ私ったらうつかり眠っちゃってたわ。…やらなきや。

カノコキーボードを使って作業を始める。

場所は変わってエマの家。

倉敷とレイコが何やら口論をしている。

レイコ いつまでこんな生活を続けるの？

倉敷 エマのことがい？

家族のことよ。やっぱりあの子を飼育所なんかで生活させられないわ。

倉敷 エマは満足そうだったじゃないか。

レイコ 私はエマがあんな野蛮な動物と暮らすなんて耐えられない。

倉敷 エマの将来を考えるとこれが一番いい方法なんだ。

レイコ エマにとってじゃなく、あなたにとって…でしょ。

倉敷 は？

あなたにとってエマは大事な娘だけど、大事な研究材料でもあるということよ。

レイコ 何？

その方が都合がいいんですよ。ずっとやりたかった研究ですものね。

倉敷 それとこれとは別だ。

レイコ あなたは平気なの？飼育所で生活させるということは他のオスとも交わりをもってしまうということなのよ。おままごとじゃないのよ！

それを納得した上でチンパンジーにしたんじゃないのか？

倉敷 あなたとは話にならないわ。いいわ。何としてでもエマをこっ

ちに戻してみせるから。

倉敷 …。

二人の口論を扉の向こうで偶然きいてしまったエマ。

エマ もうここにはいられない…。

【8】

カノコの部屋。

カノコはエマのキーボードに何か細工を施している。

カノコ これで救える…。

カノコの携帯が鳴る。電話の相手は坂上である。

カノコ もしもし？

坂上 もしもしカノコ君？

カノコ 坂上さん。

坂上 調子はどうだい？

カノコ 大分良くなりました。明日には出勤できると思います。

坂上 それはよかった。

カノコ 何か急用でも？

坂上 エマちゃんのキーボードなんだけど…。

カノコ すいません、欠陥を見つけてしまったので。明日持っていくます。

坂上 いや、それなんだけどね、さっきエマちゃんがお見舞いついで

カノコ そうなんですか？

坂上 まあ幸い君の家は研究所の敷地内にあるから人に見つかることは無いと思うけど、君の病気がこじれてもいけないし、適当に帰るように言っておいてあげてほしいんだ。

カノコ わかりました。

坂上 それじゃ、お大事に。

カノコ ありがとうございます。

二人、電話を切る。

カノコ いい人だなあ…。

坂上は、電話を切った後、またすぐ違う場所に掛け始める。

坂上 もしもし坂上です。…よろしくお願いします。

カノコの部屋のチャイムが鳴る。

カノコ 早っ！

エマ アー。

カノコ …いらっしやい。

エマ アー。

キーボード、勝手に持って帰っちゃってごめんね。

カノコ、エマにキーボードを渡す。

エマ お腹は大丈夫なの？  
カノコ ああ…うん。

エマはカノコの部屋を見渡す。  
が、部屋は綺麗に片付いていて寝込んでいた気配がまるでないことに気付く。

エマ もしかして、仮病？

カノコ いやあ…あは。

エマ 別にチクッたりしないから安心して。あんな所にいれば誰だつて息がつまるわ。

カノコ 詰まってるの？息。

エマ いろいろあるのよ。

カノコ ふーん。

カノコ、エマにココアを差し出す。

カノコ 飲める？

エマ 多分。

間

エマ 私はどこに帰ればいいかなあ…。

カノコ うん？

エマ ママは娘としての私しか見てくれないし、パパにとつての私はしよせん研究材料でしかないのよ。

カノコ そーかなあ？

エマ

パパは、みんなで飼育所に行つて、私がハンサムなオスを選んで、そのオスと、パパが見つけてきたIQ180の男の子をひとつにして、私とそのオスは幸せな結婚をして、めでたしめでたし…つていう風にしたいのよ。

それは、おもしろすぎ。

パパならやりかねないわ。

やりかねないところがまたおもしろい。

あなたにとつても、私は研究材料でしかない？

そんなことないよ。…金のなる木というか…。

正直者。

間

カノコ なんか、めんどくさくなってきたなあ。(あくびをしながら)

エマ ホント、それ。

カノコ そろそろ人間やめよっかなあ。

エマ 何それ。

突然謎の宇宙船がやってきて、銀のスーツをまとつた老人が「お迎えに上がりました」とか言うの。

んで、母国に帰つて行く…と。

そう。あーあ。こないかなあ、母船。

この星から連れ出してつてカンジ。

エマはまだ可能性いっぱいあるよ。変えられるよ、いくらでも。

そっちこそ。

私はどーかなあ。若いうちにいろいろ詰め込みすぎた。

エマ まだ若いって。

間

エマ　なんか、こんな風にしゃべれると思わなかった。

カノコ　私も。飼育所はどうだった？

エマ　楽しかった。

カノコ　教えて教えて。

エマ　ヤマトっていう男の子と出会った。ミリーの知り合いだったみたい。

カノコ　それで？

エマ　私が思うにヤマトはミリーが好き！

カノコ　おー。そんなことまでわかるんだ。

エマ　なかなか感じのいい子だった。

カノコ　で、エマはどうなの？

エマ　私はヤマトと森が見たいと思った。

カノコ　森？

エマ　そう、森。緑でいっぱいなの。

カノコ　ああ。

エマ　ヤマトのこと好きとか、そういう気持ちよりも先に、ただ森が見たいと思った。

カノコ　自然界の神秘だ。

エマ　本当の自然を知らない、世界中の生き物に見せてあげたいなあ。

カノコ　うん。

エマ　どこかに残ってないかなあ…。

間

エマ

何？

カノコは話をすべきか困惑するが、思い切ってパソコンを起動させる。

カノコ　エマ、これを見て…。

カノコ、ファイルを開く。

その画面を覗き込み、蒼白するエマ

何…コレ…。

カノコ　国の極秘ファイル…真実よ。

地球上の生物が全て滅亡するまで、あと3年？

3年後に滅亡するんじゃない。滅亡しきるの。もう、とっくに

始まっているの。今この瞬間だって多くの人間や動物が飢餓や

病気で死んでいってるのよ。そのくらい知ってたでしょ。

知ってた…けど、あと3年なんて…。

人間はありとあらゆる資源を奪い尽くしてしまった。もう、何をしても間に合わない…。

あなたはこの情報をどこで入手したの？

ゴメンナサイ…。私、あなたにウソついてた。

エマ　？

私、本当は国に派遣されてやってきた秘密捜査官なの。研究員として乗り込んで、研究所のこと、調べまわってた。

エマ　ウソ…。

カノコ　法律で認められてない研究を取り締まるのが私の仕事なの。

エマ　そんな…。

カノコ　そのことなんだけどね。

カノコ　ゴメンナサイ。

その時、カノコの部屋のチャイムがなる。  
カノコが出る間もなく、月島と桃園が乗り込んでくる。

【9】

月島はカノコに銃口を向ける。

カノコ　月島さん…。

月島　ここでの会話、全て聞かせてもらったわ。

桃園　聴診器です。(ガラスコップも可)

月島　よく我々の極秘ファイルを開くことができたわね。

カノコ　私、頭だけはいんですよ。

月島　じゃあ、あなたが研究所に派遣された本当の理由も知ってるわね。

カノコ　私を利用してらんでしょ。

桃園　その通り。

桃園、カノコを取り押さえる。

月島　言ったわよね。裏切らないでって。

カノコ　何のことです？

月島、カノコの顔にピンタをくらわす。

月島　知ってるのよ。あなたが細工したキーボード。

カノコ　監視してたの？

桃園　日記にカメラ仕込みました。

月島　なかなか大きな作戦を立てたものね。でも、もう終わり…。

月島、エマのキーボードを銃口を向けなおす。

カノコ　エマには手をださないで！

月島　もちろんですよ。この子は大事な研究材料なもの。

カノコ　許せない。

月島、ゆっくりとエマに近づいて行く。

月島がエマのキーボードを奪おうとした瞬間エマは月島につばを吹きかける。

一瞬ひるんだ月島。

しかし、その隙にエマは桃園を突き飛ばしてカノコを助ける。

カノコ　ナイス！

月島　しまった！

エマは部屋中の食器をばらまき、カノコは電気を消して部屋を

飛び出す。

暗闇の中で壊れた食器に悪戦苦闘する月島と桃園。

桃園　イタッ！痛いですが、先輩…。

月島　あんのおガキ…。

エマとカノコは研究所に向かって走る。  
少し遅れて月島と桃園もあとを追う。

カノコ 急がないと、博士たちも捕まっちゃう…。

その頃研究所では、坂上が倉敷に銃を向けている。

倉敷 どういうことなんだ？坂上。

坂上 倉敷博士、やっぱいいけませんよ。あなた程の人物が法律違反  
なんかしちゃあ。

倉敷

！  
でも、あなたがこの研究を進めてくれて助かりました。これで  
僕の仕事もはかどります。

倉敷 仕事…？

坂上 おや、知りませんか？ニューロンの記憶理論を応用した研究で  
すよ。ロボットを作るんです。天然のロボットですよ？ 聞いた  
ことないでしょう。ありとあらゆる動物にね、人間の意志を  
植え込むんですよ。そして、働かせるんです。人間が嫌いな仕  
事をぜーんぶね。何せ天然のロボットですからね、環境の保護  
にもなるってなもんでしよう。

カノコとエマが研究所に帰ってくる。

エマ パパ！

カノコ 坂上さん、何やってるの…？

坂上 仕事だよ、君と同じ。

カノコ まさか、あなたも調査部からの回し者なの？

坂上 5年前からね。

カノコ そんな…。

月島 ずいぶん手こずらせてくれるじゃない。

カノコ ! (ポケットから銃を取り出して後ろを振り返る)

月島と桃園、レイコを連れてやってくる。

月島の銃はカノコを狙い、

桃園は銃をレイコに向けている。

レイコは気を失っている。

エマ ママ！

レイコの元に駆け寄っていくエマ。

しかし、そんなエマに桃園は銃を向けてそれを制止する。

桃園 動いたら撃つわよ。

カノコは桃園に銃口を向けなおす。

この時点で、坂上は倉敷を、月島はカノコを、カノコは桃園を、  
桃園はエマにそれぞれ銃口を向けている。

カノコ どうしてこんなことしてまで人は生きようとするんですか。ど  
うして他の動物まで犠牲にしなきゃいけないんですか。自然の

摂理に従おうとしないんですか。人間は神様じゃない！

神様じゃないよ。だけどそれに匹敵する科学力を手に入れた。

カノコ 思い上がりもいいとこだわ。

坂上は倉敷のみぞおちに蹴りを入れる。  
倒れる倉敷。

坂上 じゃあ聞こう。君の考えている自然の摂理ってなんだい？

カノコ ……人間の知恵だけで生きて、そして死んでいくことよ……。

坂上 その結果がこれだろう。人間の知恵のおかげで世の中は便利になった。それで今度は死ぬのが怖くなった。もう元には戻れないんだよ。

エマ 人間なんて嫌いよ……。

月島 残念だけど、あなたには死んでもらうわ。

月島が引き金を引こうとする。

と、同時にカノコは月島の足を撃つ。

桃園 先輩！

桃園が月島に駆け寄っていく。

坂上はすぐさまカノコを狙う。

カノコ エマ、伏せてええーっ！

ふたつの銃声。

ひとつは坂上がカノコに向けて撃ったもの

もうひとつはカノコがエマのキーボードに向けて撃ったものだった。

碎け散るキーボード。

鳴り響くサイレン。

頭を抱えだす人々。

エマ 何が起ころの……。

エマはいつの間にかキーボードを手放している。

カノコ エマ、やっぱり私、人間やめるわ。

エマ アー？

カノコ もうダメなの。人間はもうここにいてはいけない……。

エマ アー。

カノコ 一度きれいに浄化しなきゃこの地球は本当に死んでしまう。

エマ アー……。

カノコ だから壊すの……。

エマ ……。

カノコ あんたのキーボードにね、人間の脳だけに有害なウイルスを発生させるプログラムを組んだの。これからそのウイルスは電波に乗って世界中の人々を侵食していく……。無茶苦茶な方法だけど、これしか方法は無かったの……。

エマ アー……。

カノコ エマ、ここからずっとずっと南に行くとな、ほんの少し、ほんの少しだけまだ森が残ってるんだって。そこに向かって。みんなで本物の森を探すの。そして、そこでたくさん子供を生んで、いつまでも幸せに暮らして……。

エマ アー。

カノコ そして、いずれはこの地球を緑でいっぱいにして……。

エマ あ……あ……。

カノコ ほら、視線を確かに定めて。南へ！

その言葉を最後にカノコの呼吸が止まる。

エマ  
あ…あ…。

カノコに言いたいことがあった。  
でも、最後までそれを伝えることができなかった。

人が死んでゆく。

静かに死んでゆく。

エマの叫び声だけが辺りに響き渡る

エマ  
あうあ…あうあ…。

暗転。

【10】

一方、飼育所では

テリー  
なんや？さっきの音は

ロッキー  
うむ、なんか明かりもおかしいぞ。

サクラ  
何かあったのかしら。

ヤマト、遠くの音に耳を澄ます。

ヤマト  
エマだ…。

ヤマト、エマを捜しに飛び出していく。

テリー  
おい！

ロッキー  
恋するお年頃…だな。ジュリア母さん。

ジュリア  
そうですね、ロッキーお父さん。

ヤマトは灰色の森の中を必死で走り回り、エマを捜す。

すると、入口の扉が開き、涙を流したエマがそこに姿を現す。

ヤマト  
エマ…。

エマ  
ヤマト…。

エマは今までの緊張が一気にほどけてヤマトに寄りかかる。  
しばらくそのまま。しかし、いつまでもこうしてはいけな  
いと思ったエマは涙を拭い払い

エマ  
行きましょう。

ヤマト  
どこに？

エマ  
ずっと南に…。森をさがしに！

ヤマト  
うん！

エマとヤマト、走り出す。

サクラ  
ねえねえ聞いた？ここからずっと南に緑色の森があるんだって。

テリー  
あの伝説のか？

サクラ うん。

ロッキー これは行くしかないな。

ジュリア 生まれてくるこの子にも明るい未来を見せてあげないと。

ロッキー 長い道のりになるかもしれないが、無茶はするなよ。

ジュリア ええ。

ロッキー、ジュリア、サクラも走り出す。

一方、研究所を出たエマとヤマトは

ヤマト うわあ、僕らはこんなに高い建物の中に住んでたんだ。

エマ ええ。

ヤマト 世界は広いんだなあ。

エマはだんだん遠くなっていく研究所を

いつまでも見つめながら走っていく。

いつまでも

いつまでも

そして、数日後

ヤマト ずいぶん走ったな。ここはどこなんだろう。

エマ ずっと南に走ってきたと思うんだけど…。

ヤマト あっ！

エマ 何？

ヤマト あそこで何か光ってる。

ヤマト、朝日を指差す。

エマ 朝日だわ…。朝日がこんなにも鮮明に見えるってことは、この

辺は

まだ、排気ガスや工場の煙に汚染されてないのよ。

ヤマト ということは…

エマ・ヤマト 森がある！

ヤマト 行こう！

エマ ええ。

二人、朝日に向かって走り出す。

ヤマト ねえ、エマ。あのお、森に着いたらあ、僕達の子供をたくさん

作ってさあ、いつまでも楽しく、仲良くやっついこうよ。僕、

まだまだ頼りないけど、がんばるからさ。

(涙を流す)

どうしたの？ 僕何か悪いことでも言ったかな。

ううん、違うの…ありがとう…。

今まで走ってきた方へ振り返り

エマ さようなら…。

【11】

全員 五百万年後の地球

それは昔

人が壊してしまった地球の風景とよく似ている

人でむせかえる都会

人がいなくなってしまうた田舎町

飛び交う電波

絶えることの無い車の音

そして

変わることの無い僕らの生活

蝉の声

公園のブランコに女の子が3人。

女の子1 …っていうことが五百万年前にあってんて。

女の子2 うそやあ。

女の子1 ホンマやって。うちのお母さん言うとなつた。

女の子3 でもさ、もしその話がホンマやったら、うちらはその子のおか

げで生まれてこれたんやね。

女の子2 そつか。何か、すごいなあ。

女の子1 自然界の神秘やね。

女の子2 ホンマそれ。

女の子1 大切にせんと。

女の子3 よし、夏休みの新聞はコレにしよ。

女の子1 うん、それでいこ。

女の子2 きーまった。

女の子3 ほな、行こか。

女の子3人、ブランコから降りて公園をあとにする。

一人の女の子が地面に鈍く光るものを発見する。

Ena-Kurashikiと刻まれたペンダント。

しかし、その文字を読むことはできない。

蝉の声

まだゆれているブランコ

子供達の声

今と変わらない生活

変えられない生活

【終わり】

【上演記録】

二〇〇一年十一月、兵庫県立夢野台高等学校演劇部により上演。  
(作・演出／中嶋悠紀子)

【本作品の転載・上演について】

本作品を無断で転載・上演することをお断りしております。  
左記連絡先までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ】

プラズマみかん 中嶋 悠紀子

plasmamikan@yahoo.co.jp (劇団)

080-3862-0481 (劇団)